

宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト 鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能に関する 基本方針（案）市民説明会報告（区役所）

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 31年2月10日(日) 15:00～17:00
- (2) 会 場 宮前区役所4階大会議室
- (3) 来場者 約 250 名

2 実施概要

1. 開会のあいさつ

小田嶋宮前区長からご挨拶いたしました。

2. 基本方針(案)の説明

配布資料に沿って、基本方針(案)の内容についてご説明いたしました。

3. 質疑応答

ご質問・ご発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、事務局及び担当部署から回答させていただきました。

4. 閉会のあいさつ

堤宮前区副区長からご挨拶いたしました。

【いただいた御意見・御質問と応答内容】

※当日お越しいただけていない方にも分かりやすいよう一部言葉を改めています。

質疑応答に先立ち、質疑応答の手法を説明するとともに、質疑、回答については、簡潔にまとめていただけますようお願いいたしました。

- (1) 宮崎に住んでいる。一番気にしているのは、費用的なものであるが、これが、資料に見当たらなかったが、全体として費用はどのぐらいかかるのか。
それから、その費用は相当なものになると思うが、それを建てたことによって新たな税金の徴収とか負担するものはないんだと思うが、その辺をはっきりさせてほしい。

(まちづくり局地域整備推進課)

現在、準備組合が計画等について検討しており、基本方針が3月に成案とされた後に準備組合のほうにアセス等の手続を行った上で、事業展開を決定という形になります。

資料2の4ページの下に再開発事業の事業収支のイメージということに記載させていただいています。再開発事業全体の支出は、調査・設計費、土地整備費、工事費などを積み上げる形になります。積み上げるに当たっては、施設の計画が全て決まって、その施設をどういうふうにつくって工事していくかという施工計画が決まってくるかと、事業費全体は決まってくるかと、今の段階ではお示しすることは難しいという状況でございます。

一方で、収入金は、保留床処分金、要は工事、例えば住宅などの床をつくって、それを売り払ったお金と、あとは自己資金と補助金等ということですが、その補助金等というところに川崎市も含めて再開発事業の補助金を導入することになります。こちらはまだ全体の事業費が決まっていないので、未定となります。

公共機能の費用につきましては、資料1の4ページになりますが、他都市の事例や、中原図書館で再開発の中で合築して導入している事例の金額から概算をはじいたのがお示しした移転した場合のコストになります。鷺沼駅周辺再編整備に伴い移転する場合というのが、右側の(2)のコスト面の中段②の累計費用というところになりますが、今185から195億ということで、今の区役所用地の資産というのを勘案して出している費用になりますが、そちらが想定のコストということになります。実態は、整備をした段階で最終的な金額が決まっています。

(追加のご意見)

200億前後かかるということだが、これで税金の追加とかがあるかどうかが一番気になるところである。それだけははっきりさせてほしい。

(事務局)

この200億近い額は60年間かけてというぐらいの額でございますので、いきなりこの費用が直接かかってくるということではございませんし、もちろん新たな税負担がないように、収支バランスに考慮して、財政運営をしていくということでございます。

(2) 発言が2、3分でということだが、私たちは質問だけでなく意見を言いたいからここに来ているので、その時間を与えてほしい。私も一生懸命原稿書いてきた。大体5分で終わるように考えてきたので、しゃべらせてほしい。

宮前区民から、住民合意がないまま拙速な決定はしないでほしいとする陳情が出され、1月24日の文教委員会での審議を見た。市の答弁としては、これまで住民意見を民間の再開発準備組合に届けてきたが、これ以上民間事業者を待たすことはできないということ。市民同意による合意がないことを知りながら、わずか9カ月で基本方針を決めてしまうわけである。企業の事業者のほうは待てないけれど、市民のほうは急いで切り上げてしまうという感じ。

さらに問題なのは、これまでの議論は鷺沼駅周辺の再開発に当たり、どのような公共機能が必要かなどの議論をしてきたのであり、一定に賛成か反対かの議論はしていなかった。と

ころが、全面的に移転の方針が出された。今までの経過と全然違うことが突然出てきたということである。こういう不十分な市民の意見の反映の中で出てきた問題であるから、私はいろいろな問題があると思う。

鷺沼駅前再開発については、具体的な案が出てない。ただ、平面のイメージ図だけで、これでは高層ビルだって面積がどのくらいなのか、何階建になるのか、何メートルになるのか、全然わからないし、金額もわからない、こういう中でどうかって言われても意見の出しようがない。これをわずか1カ月のパブリックコメントで住民の合意を得たとして開発事業を認可してしまうのかどうか、そのことを聞きたいと思うが、そうなってしまえば大変困る。

市内の先例として、武蔵小杉駅の再開発では、民間事業者ベースで超高層ビルがたくさん乱立して、市民にとって大変住みにくいまちになった。何階建になるかなど具体的なものを早急に出して、そして意見を聞いてほしい。それまでは決めないでほしいと思う。

二つ目には、基本方針案は、鷺沼駅前に公共機能を全面移転させて生活拠点にすると言うが、宮前区全体の暮らしを考えていない気がする。市の総合計画では、宮前区の拠点は、宮前駅周辺と鷺沼駅周辺の2カ所であったはず。それが、今回は1カ所に絞られた。このこともおかしなことである。市役所行政としては、23万の区民の全体を考えて、公共機能や交通をどうするか提案してほしいと思う。鷺沼駅前以外のことは再開発後に考えるというのでは区民は納得できない。市民館や図書館は今と同じ規模で並行して、ぜひ宮前区全体を考えて提案してほしいと思う。

市民館や図書館は今と同じ規模で鷺沼駅前に全面移転するということが、鷺沼駅前から離れた地域に住む人たちにとっては、大変利用しにくくなることは明らかである。そもそも、市民館や図書館は他の指定都市と比べても、圧倒的に少ないことを考えれば、現在の市民館・図書館はそのまま維持した上で、鷺沼駅前にもつくればいいのではないか。

2016年の国の調べによると、川崎市は一人当たりにかかる図書費は20の政令都市中18位で最下位である。人口が川崎市より少ない、さいたま市と比較しても、図書館数はさいたま市が25館、川崎市は11館で半分以下である。市内の7区と比較しても、ほかの区は大体2館あるが宮前区は1館。本の冊数も少ない。

市民館や会議ができる文化施設も人口が宮前区より少ない幸区とほぼ同じ、同じ人口の高津区と比べたら、圧倒的に少ないです。会議室なんて33%しかなく、大ホールなんかでも座席数半分である。

そんなことを考えれば、1カ所に絞るんじゃなく、市民館・図書館は2カ所にして、ここは維持して、さらに鷺沼につくるということは、どうか。

それから、三つ目には、防災拠点の問題だが、鷺沼駅の橋周辺には土砂災害危険区域が指定されている。大地震のときには、土砂崩れの危険がある。拠点は現在のところに置くべきではないか。災害リスクはどちらも同じだと言うが、鷺沼のほうは、駅の裏の橋周辺は湿地帯、沼地を埋め立てた14メートルも埋め立てたところで、17メートルぐらい軟弱地盤である非常に危険である。現区役所のほうも埋め立てたとか、危険だとか言うが、これは山の切土だから、そんなには弱くはない。そういったことを考えれば、防災拠点は今のままにして、そして向こうにも災害のための対応のホームをつくっておくことは必要かと思う。

区役所の問題も、高齢者が多くなるという中で一つに、しかも横浜に近い宮前区のはずれのほうにつくって、それでいいというんじゃなくて、お年寄りも気軽に近くに行けるという意味では、この区役所と鷺沼と向丘出張所の3カ所ですっかり市役所機能を果たすように、取り組んでほしいと思う。

(市民文化局区政推進課)

昨年2月に公共機能の検討に関する考え方をお示しさせていただきました。その中では、区役所、市民館・図書館の移転可能性も含めて鷺沼駅周辺再編整備等に導入する公共機能について検討するということで考え方を示させていただいております。そうした中で、フォーラム、意見交換会、区民意識アンケートなどを実施させていただきました。ご意見としましては、移転について賛成反対というような明確な意思表示をされた方もいらっしゃいますし、そうではなくて、宮前区のまちづくりをもっとこうしてほしいというようなご意見もございました。

そういったご意見や、現区役所施設へのアクセス性の課題や、現地での建てかえた場合や鷺沼に移転した場合など3パターンでの移転の比較を行い、その結果、諸条件及び将来展望を総合的に整理検討し、今回こういった基本方針(案)をまとめさせていただいたのでございます。

(まちづくり局企画課)

ご指摘のとおり、宮前区の拠点としては、鷺沼駅周辺、また宮前平駅周辺という位置づけとしております。

そういった中、平成29年8月に鷺沼駅周辺で関係権利者による再開発の準備組合が動いていくということが決まり、川崎市としては、できる限り民間活力を活かしながら、広場、道路、都市機能などの、市民の皆様にご利用いただくような施設を鉄道駅周辺に整備すること、鉄道駅へのバスネットワークのアクセス等を強化することにより、多くの皆様が利用できるような施設というものの取組を進めていきたいということを考えております。

現在、鷺沼駅周辺のまちづくりというところが先行しておりますので、まずは鷺沼駅周辺のまちづくりを進めていきたいと考えております。今後、引き続き、宮前平駅周辺の動向等も踏まえながら、必要なまちづくりへ適切な機能分担等考えながら、まちづくりの取組を進めていきたいと考えております。

(宮前区役所企画課)

地盤についてのお話ですが、せっかくこんなすごく地盤のいい今の宮前区役所のところを何で鷺沼の地盤悪いところ行っちゃうの、といった話を結構伺います。

我々が防災について調べた内容は資料2の54ページの図ですが、宮前区内は、田園都市線が延伸されてから宅地開発が進んできたところなんです。鷺沼のあたり、沼というような名前がつくから余りよくないんじゃないかとか、大規模に土を盛ったとか埋めたんじゃないかというお話をいただくのですが、資料2の54ページの上に大規模造成地の分布図というのがございます。鷺沼駅のあたり見ていただくと、黒く塗ってあるところが土を盛ったところ、谷戸とかに土を盛ったりしている場所というところになります。確かに結構広い範囲で黒があります。一方、区役所の周り見ますと、左上のところと同様にかなり盛って

るとか埋めているところが見られます。宮前区内はもともと山だったところを切ったり盛ったりしながら土地をつくっておりますので、どこも似たような状況になっております。

それから、鷺沼のほうが地盤が弱いんじゃないかとの話を伺いますが、54ページ下の比較表の建物の支持が可能と想定される地盤までの深さは、鷺沼駅の支持地盤が28メートル以深となっており、これを見て28メートルまで行かないと建物が支持できない、その上の地盤が弱いんじゃないかというのを思われる方がいますが、建物を設計する際に、上の建物の重さを基礎でちゃんと支えられるかどうかを検討しますが、今回みたいな大きい建物というのはかなり重いため、しっかり支持できるすごくかたい地盤というと28メートルということになります。ただ、鷺沼駅前でも例えば木造2階建ての戸建などを建てようする場合はそんなに重くなく、28メートル下まで杭を使うかという、鷺沼の周りはそんなに悪くない地盤のため、普通に建てられます。同様に区役所のある、宮前平の支持地盤は14メートル以深となっておりますが、実際図面では、19メートル下まで杭を打っている状況で、両方でそれほど差異はありません。

盛り土に関して、液状化が大丈夫ですかとか聞かれますが、液状化については宮前は、地震被害想定の中では特に危険がない場所になっております。

(教育委員会生涯学習推進課)

市民館・図書館機能の目指す方向性として、今回、宮前市民館・宮前図書館を駅前に移転することでアクセス性の向上に伴いまして、来館者の増加であるとか、さまざま民間施設等々との連携で相互連携の可能性が生まれてくること、また、新たな施設設備を活用したサービスの可能性が広がるということ、そういったことを目指し、各区に1館設置してございます地区館を鷺沼駅前に移転すると基本方針(案)には示させていただいてるところでございます。

分館の設置について、資料2の61ページに、分庁舎分館等の設置に関する考え方ということで記載をさせていただいておりますが、これまで市民館・図書館の分館整備につきましては、紆余曲折がございましたが、市の総合計画の位置づけ等々で進めさせていただいており、現在の考え方につきましては現在宮前区含め、ほかの区でも市内に新たな社会教育施設を整備する計画はございません。既存の市民館・図書館あるいは分館を軸とし、学校施設など既存施設を活用しながら身近な場所できめ細やかなサービスを提供していきたいというのが基本的な考え方でございます。

他都市、あるいは他区に比べて宮前区、数が少ないのではないかとというようなご質問、ご意見もありましたが、まず宮前区につきましては、宮前市民館・図書館の地区館1館と、市民館分館として菅生分館が、また、有馬・野川生涯学習支援施設(アリーナ)にも会議室、あるいは地域図書室を設けてございます。皆さんが集う場ということであれば、学校の特別教室の開放や、図書館サービスということにおきましては、例えば土橋小学校と稗原小学校で学校図書室の一般市民に向けた開放等も行っておりますので、そういったところできめ細やかな身近なところでのサービスということで、今後も努めてまいりたいというふうに考えております。

(市民文化局区政推進課)

向丘出張所につきましては、今日午前中に説明会を出張所で開催をさせていただきました。その中でもご説明をさせていただきましたが、資料1の5ページ右側1番の(3)⑤に、地域バランスを考慮した区全体の機能向上ということで、本市の関係施策の位置づけや検討状況を踏まえまして、「身近な活動の場」や「地域の居場所」としての活用などについて、地域の皆様とともに地域ニーズや課題を把握、整理して、機能のあり方について検討していくということで、今回位置づけをさせていただいております。

具体的にどのような地域ニーズがあるかというのは、これから新たに検討の場を設けまして、皆様とともに検討していきたいというふうに考えております。

鷺沼地区につきましては、現在、行政サービスコーナーがございます。この中で三つの、宮前平地区と鷺沼地区と向丘地区、それぞれ三つで同じ機能を持たせるということは、事実上不可能でございますので、それぞれ地域ニーズに応じてどのような機能が必要かということ、移転した場合でも、こちらの宮前平地区につきましてもどんな機能が必要かということは、地域の皆様と一緒に考えていきたいというふうに考えております。

- (3) 宮崎六丁目に住んでいる。今の質問に関連して、今までこういう会議が何回かあったが、移転することによって周辺の皆さんの行政サービスが非常に落ちるということに対する救済措置については全然考え方の説明がない。この地域に住んだのは近くに市民館、図書館があるからという方もいるし、土地の値段が下がるという発言を会議でされた方もいた。

そういうようなことを考えると、従来ある施設をそのまま残して、向こうに新しくつくる、つまり二つの施設をつくるということをやっていただきたいと思う。

さっき入り口でもらった資料の中で、宮前区は市民税を一番たくさん払っているが、それに見返る、図書館数だとか、会議室だとかは、一番少ない、そういう行政サービスが最低の区であると。ここにいらっしゃる皆さんはたくさん税金払っている。その見返りのサービスが最低だとなると、私自身は鷺沼のほうに新しい施設をつくってもらい、不便な市民が便利になるのは全く賛成である。

今の施設はそのまま置いておいて、できるだけ耐用年数の尽きるまで使う。そして、向こうのところには新しくいろいろアイデアを出してもらっているから、何か施設をつくってもらおうということを提案する。

向こうの施設について、市民館が行かなければ、そのかわり何かの施設、病院もつくるとか、子どもの遊ぶ施設をつくるとか、プラスアルファの新しいものをつくる、ということを考えほしい。

(市民文化局コミュニティ推進部)

周辺の住民への救済措置ということでございますが、確かに今まで徒歩で図書館に行けた、あるいは区役所に行けたというお立場の方いらっしゃるというのは間違いのないと思います。そうじゃない地域の方は、恐らくそれぞれまたその地域ごとに思いがあったと考えております。

この検討は、具体的な考え方をお示してから1年間で考えてきたのですが、実はそれ以

前から区民の皆様と行政とが一緒になって、区役所への区内各所からのアクセスを大変大きな問題として、ずっと考えてきましたが、画期的に解決できるような道は見出せなかったという状況が続いてまいりました。そのような経過があり、総合的な判断として鷺沼に集約するというを今回方針としてお示いたしました。

この近くの方について、デメリットになるということは、否定しようがない事実かもしれません。ただ、移転した際に鷺沼から区内各所への交通利便性が改善できるため、区内全域により効果をもたらすことができるものということで、この案を示してきたところです。

跡地につきましては、今後皆様と一緒にこの施設、用地をどう活用していくか。区民の地域の皆様、ここ近くにお住まいの近所の皆様が喜んでいただけるようなものができるよう検討していきたいと思っておりますが、今現在の区役所、市民館・図書館と同じ機能をここに残して鷺沼にもつくるということは、ございません。

住民税を一番多く払っているが、サービスが少ないというご意見も何度か耳にしております。広域拠点として川崎や武蔵小杉に大きな投資が行われてきたのは事実でございますが、それは、市民全体が使うということで交通利便性の高い交通結節点に整備される傾向があったということでございますので、なにもその区にお住まいの方だけのものということではございません。ご理解下さいますようお願いいたします。

- (4) 六丁目に住んでいる。移転後の図書館と市民館を現在と同程度の規模と言うが、建築時よりも人口も増加している状況で、同程度のものでは、移転する意味はないんじゃないか。

鷺沼に行くということで、駅に近いというメリットは確かにあると思うが、宮前の区役所と市民館ができた当時から、駅から坂道、アクセスが悪いというのはずっと課題ではあったと思うが、例えばそのバス便ということであれば、各地から宮前市民館に来るバス便をふやすということで解消される問題もあるのではないか。

図書館というのは、小さいお子さんから高齢の人までみんなが利用するところで、憩いの場になっている。商業施設の相乗効果と言うが、子どもの環境という意味では、ずっとこのほうがいいのではないか。文教施設として、商業施設との混在がサービス向上になるのかということをよく考えてもらいたいと思う。

それから、もう一つ、準備組合というのは、どういったものなのか。市民館、区役所の検討において市は主導権をもっているのか。準備組合に対して、再開発のコンセプトの検討を依頼したとあるが、そこがすごく不安である。市として行政の立場でちゃんと考えていただきたい。民間施設との協同ということもあるが、行政サービスの理念もちゃんと守ってほしい。

(教育委員会生涯学習推進課)

大きな施設に越したことは無いのですが、同程度の施設を確保しつつも諸室の配置であるとか、いろいろな機能の工夫によって、今より使いやすく、また、さまざまな可能性が広がるというふうに考えております。その中でどういうものが新しくできるのか、どういうサービスが皆さんに求められていることなのかということを考えていかなければならないと思っておりますので、基本方針案の中では、市民館、図書館については現在と同程度の整備を基本と

して検討を進めてまいりたいと考えております。

また、商業施設に行く環境はどうなのか、ということについてはさまざまなご意見があるかと思えます。どういった市民館・図書館にしていくのかというのを皆様から、今後具体的にご意見等伺いながら、より良い施設にしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(まちづくり局地域整備推進課)

今回鷺沼駅周辺での準備組合は、再開発事業の検討や、推進するために設立された任意の団体でございます。資料1の1ページに再開発事業を施行予定している区域がございますが、このエリアの権利者さん5社が準備組合の構成員になっております。

市のかかり方でございますが、資料2の98ページ、99ページになりますが、鷺沼駅周辺の再編整備について市が「鷺沼駅周辺の土地利用方針(案)」を平成27年度に策定しており、この方針に基づきまして、準備組合のほうで再開発事業等について検討を行ったということでございます。

今回、公共機能に関する基本的な考え方を検討するに当たり、意見交換会やフォーラム等でいただいている市民意見等を踏まえ、準備組合に対して再開発コンセプトだとか施設等について検討を依頼し、その結果として、再開発に関するコンセプトとゾーニングイメージをいただいたところでございます。

(市民文化局区政推進課)

この場所へのバス便の増などでアクセスを改善することができるのではないかとのご質問ですが、向丘方面から宮前平この区役所エリアへのバスアクセスは、比較的便利だと思っております。ただ、鷺沼方面からのバス便は余りなく、有馬地区の方々にとっては、一旦鷺沼に出て、田園都市線に乗りかえ、また宮前平で、バスに乗りかえるなどして上がってくるというような状況があります。バス便について、色々な方面へ路線を増やすということができればそれが一番良かったんですが、区役所、市民館・図書館というのは、日常的なバス利用がそれほどあるわけではなく、バス事業者にとってコスト的にはなかなか難しい路線だということなどで、なかなか実現しなかったというのがあります。

そのほかにも、宮前平駅からシャトルバス、動く歩道を整備してはどうかかといったことも区民の皆様と議論してきたことがございますが、それもやはりコスト的な部分でなかなか実現は難しく、さまざま検討してきたのですが、画期的な解決策には及んでいないというのが実情でございます。

拙速というようなお話もよく伺いますが、今回の再編整備は民間ベースの事業ですが、鷺沼駅周辺が大規模に開発されるというのは、そう頻繁にあることではないため、この機会に行政として、今までの宮前区の抱える課題を解決するためどういふものとするのか、限られた期間の中で、一定の答えを出さなければならないという状況がございました。

ただ、詳細については、これからまだまだ検討していく余地はあります。今回3施設の移転という大きな方向性は、お示しいたしました、それに伴い、現位置をどうするのか、向丘出張所機能をどうするのか、そうしたこともあわせて考えていきたいと思っております。

(5) 鷺沼一丁目に住んでいる。鷺沼にすばらしいまちができるというようなイメージで案が示されているが、住んでいて本当に、今でもバスも、人の出入りもひどい。

いつの間にかこういう図面ができていて、鷺沼東急と今の交通広場の間の道路を減らせばゆとりができるとあるが、車が走る必要性があるから今の道路があるわけで、これはもう本当に机上のプランとしか言えない。

もともと今回の図面は、ほとんど平面図で立面図がないが、鷺沼のこの地域に区役所が行くと、そこがどういう高さでどういう上屋になるのか。

それから、もう一つ、駅前街区にバス・タクシー待機スペースをどういうふうに埋めていったら、バスがたくさん入るようになるのかということを検討しない限り、これは砂上の楼閣になって、さらに鷺沼地区の混雑を増すだけだと思う。

最後に、まちづくりの区域とあるが、この区域に隣接している現在の鷺沼の住民の家だとか、それからマンションだとか、そういうものを壊したりすることはないのか。この近辺の人が非常に懸念している。ただでさえ工事でどかんどかんやられるというようになると思うが、そういうプランや危険リスクが何も入っていないというのが非常に怖いと思う。

(まちづくり局地域整備推進課)

バスと渋滞の懸念というところですが、資料1の1ページの右下に鷺沼駅の現状の交通広場の図がございしますが、バスの停留所は4つしかないという状況になっております。交通広場に近隣して信号が3つございまして、なかなか複雑な信号の状況になっております。

資料1の6ページになりますが、バス広場と商業施設の間の道路を廃止することによって、まず信号が3カ所から1カ所に減ります。それとあわせて、道路の拡幅をいたしまして、右折、左折レーンを設置することにより、通過交通をよりよくさばけるような形にすることで交通流の改善を図ってまいります。

バスにつきましては、既存の駅前交通広場の2倍程度の面積といたしまして、現況4バスだったところを乗車6バス程度、降車2バス程度、計8バスとする計画でございします。

今の広場では、乗車バスにバスがとまっている脇で、バスの降車や、タクシー、一般車が混在しているような状況となっておりますが、タクシーの乗車、待機スペースや、一般車の乗降スペースを設ける方向で検討しているところでございます。

今回の再開発事業につきましては、1ページ目にございます実線で囲われている区域で行うものですが、再開発事業に伴って周辺区域で何かということはございしません。ただし、鷺沼駅の駅前ということもございしますので、今後、周辺の皆様方で共同化などの機運があれば、隣接しているところにつきましては、何らかの動きの可能性もあるものと考えております。

(6) 神木に住んでいる。先日、市政だより宮前区版特別号というのを見て驚いた。住民全体の問題であるのが、1年足らずで基本方針が出されるということ。しかも、どれくらいのビルが建つのか、跡地がどういうふうに活用されるのか書かれていない。そういう中で、基本方針(案)が出されたということについては、まず強く市に対して抗議をしたい。

その上で、意見を言いたい。

一つは、民間施設との連携が盛んに言われているが、果たして行政としてどのくらい考えて、どのくらいのが盛り込まれているというのが非常に懸念される。宮前区版特別号の3ページに機能連携イメージという図があるが、準備組合提供資料となっている。これだけのことを区として出さないで、準備組合、民間の方から出されたのがそのまま使われている。どれだけ市が検討しているのかが疑われる。そういう意味で、もっと行政として福祉の向上という立場に立った行政を進めてもらいたい。

二つ目には、防災面。これまでの説明の中では、防災上、警察や消防署、そして区役所が一緒にあるのが一番いいというように言ってきたと思う。ところが、今回、そうではなく、2極化のほうがいいんだというふうなことも書かれている。一体どっちがベターなのかははっきりしてもらいたい。行政として今、震災を考えた場合、もっと真剣に取り組んで考えて結論を出すべきであって、どちらでもいいような言い方はいかなものか。

それから、三点目にはコストの問題。市は、これまで財政難だと再三繰り返してきた。それなのに、何で200億も300億もかかるのをばっとやってしまうのだ。全く矛盾をしている。コスト面から見れば、現区役所がまだ数十年使えるのであれば、現区役所、あるいは図書館や区民施設を残して、宮前区の人口が増加をしているという中で、その当時からほとんど施設がふえていないということなのであれば、鷺沼にはそういう足りない施設をつくっていくということでは十分ではないか。

(市民文化局区政推進課)

1年足らずで基本方針(案)を出したというところでございますが、先ほど来申し上げておりますが、まず民間の再開発が先にある、それを宮前区のまちづくりのためにどれだけ生かすか、宮前区全体に波及させていくかということを検討して、限られた期間の中で意見交換会など市-民の皆様のご意見をいろいろな形でいただき、そのご意見を準備組合に投げかけ、こういったコンセプト等が今回出てきたところでございます。市といたしましては、今回の再開発を宮前区のまちづくりに最大限反映させていきたい、ということでこのスケジュールにのっかって進めてきたところでございます。

また、資料1の5ページ第5章1の(2)の方向性にも書かせていただいておりますが、民間事業者による再開発事業との連携により、民間施設と行政施設の相乗効果による機能・空間の実現を図り、文化・交流の形成と新たなコミュニティの形成を図るということを打ち出しております。これは、今現在、川崎市といたしましても、新たなチャレンジになります。今回の機会を捉えて民間との相乗効果をぜひやっていきたいというふうに考えております。

(市民文化局コミュニティ推進部)

防災機能につきまして、区役所、消防署・警察署が近接してあるということについては、周辺の皆様に与える安心感ですとか、そういった意味から、一定程度優位性があるものと言えると思います。

ただ、実は区役所と消防署・警察署がほぼ一緒の場所にあるというのは、宮前区だけで、それ以外は、ほぼ別々の場所にそれぞれが存在しています。それでも、防災機能としては、きちんと確保していくというのが行政の責任だと思っております。

そういう意味で、鷺沼駅に区役所が移転して、警察署・消防と場所が離れてしまうといったご不安については、その状況にあわせた最適な防災体制をとるということでしたっきりとした体制を提供していきたいということで、どちらがベターなのかということに対しては、その状況にあわせて最適化することはできますということを申し上げているところでございます。

(事務局)

コストの件について、また、財政状況が困難だということに関してのご質問ですが、200億円というような額が出ていますが、これは建物をまず新設し、その後維持管理をしていくという60年間にわたってのトータルのコストになります。どのタイミングで新しい建物を建て、どのタイミングで大規模修繕をするか、切り出すタイミングによってトータルコストというのが変わってきますが、60年ということですと、どの建物でも一度は新設、大規模修繕をしなければいけないというところで、やや差はありますが、必要な規模の建物を建てていく際に、必要な経費ということでどちらが有利だということまでは、今の段階で我々としては評価しておりません。

- (7) フォーラム全部、ワークショップも全部傍聴した。区役所、図書館・市民館、移転について、何が出されたか、何を隠して何をしたか。発言記録によると、賛成派は子どもを預けてお茶したい、ターミナルビルが欲しい、今までロータリーを拡充するのに東急に交渉したけどできなかった、したがって区役所に来てほしい。そんな内容である。

2月4日の川崎市長の記者会見によると、フォーラムに集まってくる人は、みんな反対で来る、賛成の人はその場に来ませんよと、フォーラムをなめてかかっている。これはユーチューブにのっけていて、みんな知っている。

次にワークショップのメンバーについて、50人中30人が鷺沼派である。区長は、公平に集めており、多様な意見を集めていると発言、何が悪いのかという公正記録がある。市は応募のあった中から地理上均等に選んだとのこと。皆さんも知っていると思うが、固まっているんだ、鷺沼に。これでいけば、当然引っ越したいという意見になる。これはいろいろ、あちこちで問題になってくる。

9月5日のワークショップで、いわゆる出口取材をした。鷺沼派とファシリテータが発言をシャットアウト、誘導されたという音声記録がある。ワークショップの音声記録から市民館の移転要望は何もない。単に音楽の練習場所が欲しい、私は生け花の講師をしているが発表の場がない、横浜とか東京を利用するしかないなど、図書館をお茶飲み場と間違えているような、身勝手な発言が多かった。鷺沼に移転の理由とか図書館をどうあるべきか、そういうふうな議論は何もない。まず移転ありき。

最後のワークショップでは、わずか5カ月で到底十分な提案も検討もできなかった、鷺沼はまずは相談窓口さえあればいい、交通問題の専門家からは、解決策はまとまらなかった、そういう音声記録がある。

フォーラムの音声記録にあったように、3回とも8割の人が反対であった。読売新聞11月12日号、東京新聞2月5日に、ハザードマップに指定されているからといって危険だと思わないという市からの回答がある。

移転しても利便性は何もない。宮崎、宮前平、ここの立派な環境をどう思っているのか。こんな遠くから鷺沼まで上るか、この辺に住んでいる人は誰も鷺沼まで行ってない。人の動線を考えずに、持っていくというのはもってのほかだ。ここから考えたら、鷺沼は辺鄙なところである。

文化の創出、築いた文化をぶっ壊す、こんな市があるか。横浜の県立図書館、県民ホール、紅葉丘、いいところは、残っている。市にはこういう文化はまずない、姿勢がない。

それから、災害、災害対策じゃない。ここに持っていったらいかんというのは、国連のいわゆる方針である。箱物文化というものは、今は過去もの、今はローカル再生、地域再生など全て人に優しく寄り添う姿勢が大事。年寄りがみんな田舎によって、鷺沼に出てこれない。したがって、これからは、ヨーロッパの教会のように地域密着型の文化を築くのが川崎市の方向であると思う。

それから、SDGsについて、市側は誰も知らない。地方自治体がこれから真剣に取り組むべき住み続けられるまちづくりのテーマ。災害のおそれがある、しかもハザードマップにあるところに公共施設、区役所、市民館・図書館をもってくるべきでない。これは国連の方針とともに国土交通省の方針でもある。いわゆる原発、断層の上に原発建てるのと一緒である。持続可能社会というのは、年寄りよりも子どもに聞いてほしい。恐らく小学校ではみんなこういう教育されている。年寄りはSDGsって何ですかと。恐らく市の方も知らないんでしょ。

昨日、一昨日、川崎の国際環境技術展に行ってきた。宮前区のこの話やったらみんなびっくりしている。市長がそんなこと言ったのか、そんな話あるのかと。ここよかったのにと。

回答は不要である。

(事務局)

回答は要らないということでしたが、ワークショップに参加していただいた方々に感謝する者として、今の発言は訂正をさせていただきたいと思います。

決して、賛成の方々だけが集まって意見交換したわけではなく、さまざまなご意見をいただきながら皆さんで苦労しながら合意形成を進めてきました。このことについては、ここでしっかりと否定させていただきます。

- (8) 鷺沼町会に所属している。市長が2月4日に行った今回の計画についての説明や、特別号、それから今日の資料などを見て、また、今日の説明で十分鷺沼駅周辺地域が地域生活拠点として素晴らしい、いいまちになるのではないかなというふうに変えて大変喜んでる。

先日、田園都市線に乗っていて、鷺沼駅に急行なんで停まるの、こんなことを若い人たちがしゃべっていたが、やはり大分地盤沈下してきたなと感じている。今回の再開発で、人気のある二子玉とかたまプラーザとか武蔵小杉と同じようにいいまちづくりをして、鷺沼・宮前平エリアが再び人気エリアになるように期待している。

したがって、市の方針については全面的に支持する。この計画は、中身についてできるだけ区民に説明をしてほしいと思う。また、時代の変化というものは早いため、計画をできるだけ前倒しをしていいまちづくりしてもらいたいと思っている。

特別号で出ていた、民間施設との連携による文化交流拠点の形成と新たなコミュニティ

の創出のイメージ図、これは私も全くだと思う。衰退しないで発展するまちには、こういうイメージが大事ではないのかと思う。その中で、業務機能というのがうたわれているが、現役世代の方々が最近よく都心回帰と言われているので、その流れをとめて宮前区で何とかしよう、これをつくっていい循環型のまちにしていければと思っている。

再開発のチャンスを生かして、宮前区らしいあるいは鷺沼らしい再開発を行い、日々の生活にいわゆる充実と満足感のあるいいまちになればいいなと思っている。

(9) 鷺沼三丁目に住んでいる。若い人が全然いないので、代表して言わせてほしい。

鷺沼駅自体の駅舎の改良は、この対象区域に入っていないが、別々にやるという解釈でいいのかということを知りたい。

鷺沼駅の北側に住んでいる人間として、早朝でも結構混むので、北口側にも一般車の乗降スペースを確保してほしい。また、北側から南側のバスロータリーに抜けるための自由通路なども欲しい。

具体的な中身がないという話もあるが、土木をかじっているので、あまり具体的なことが決まり過ぎてやられても絶対文句も出てくると思うので、今やってくれたことに感謝している。

宮前平からこの鷺沼に来ることに関して、僕はプラスでしかないと思う。鷺沼に住んでいるのでそう思うが、今このエリアに住んでいらっしゃる方々にとってマイナスであることは確実だと思う。それをいかにゼロにするためには、鷺沼から宮崎台までの宮前区役所前を通っているバスの増便や、鷺沼と宮前平と宮崎台の3駅を8の字型で循環するバスの整備、増便してもらうなどしてほしい。

学生の視点としては、図書館が遠過ぎて、宮前平から、たまプラ行くにも高津に行くにもちょっと面倒くさいので、何だかんだ武蔵小杉の中原図書館に行っちゃうという人が多い。鷺沼は塾も多いので、学生にとっては同程度に抑えず、たくさんの自習スペースや本を置いていろんな人に使ってもらえる場所にしてほしいと思う。

(まちづくり局地域整備推進課)

今回再開発を予定しているエリアに、鉄道機能の部分については入ってございません。

駅舎について、現在のところ東急電鉄から具体的な検討の方向性については、示されておられません。ただ、隣接で再開発事業を検討しているので、今後、鉄道施設、駅舎のほうも含めて検討していただくよう、要望していきたいと思っております。

(まちづくり局企画課)

駅北側の乗降場や、北と南をつなぐネットワーク、この辺につきましては、今後事業が進んでいく上で具体計画が進んでまいります。

その中でいただいたご要望含めて、再開発事業の中でしっかり集約ができるよう、川崎市として指導等を行いながら、事業者と協議調整進めていきたいと考えております。

(10) 有馬に住んでいる。3. 11のときに、宮前区役所の中に避難を求めて何十人という方がいらっしゃったそうですが、区役所の中には畳の部屋もなく、ベッドとして使えるところがなく、机を並べたりいろいろ工夫をして、そこに何とかして泊まっていたそうである。今まで防

災としては、消防署があることばかりが目されているが、こういう機能についてはなかったと思う。

今度、駅のすぐそばに公的な施設ができることによって、そこに避難をすることもできるし、備蓄庫もきちんと公共施設とともに帰宅難民やそういった避難して来る方のために準備することもできると思うので、駅に近いという条件をぜひ有効に活用して、そういう対策もとってほしい。

それからアクセスについては、利用している方はまだ少ないが、鷺沼に小田急バスが参入し、川崎市バス、東急バス、小田急バスの3社が集っている。その状況を考慮すると、ただ単に増便したりなんかするだけでなく、都市計画道路が行き詰まっているところが何カ所かあるので、そこをきちんと整備して、もう少しバス便を有効に使えるような交通アクセス対策も一緒に検討していただきたいと思います。

(事務局)

防災の件について、3.11の事例を挙げて、今度はそういったことも教訓にしながら、取組を進めていただきたいというご提案があったことと、あとバスネットワークについて、市バスだけではないバス事業者と連携による発展的な検討をしていただきたいという提案だったと思います。ご意見として承ります。